

今福町で音楽祭

「平成 17 年度一人暮らしのお年寄り・高齢者との昼食会・今福町民音楽祭」（今福地区社会福祉協議会と今福公民館の共催）が2月24日、今福公民館で行われました。

音楽などを通して、世代間交流を深めようと毎年開催されています。

今福保育所園児や今福小・中学校の児童、コミセンや公民館利用者らが遊戯や合唱などを披露。今福保育所の園児は、炭坑節でお年寄りの中を練り歩き、会場はにぎわいました。

また、今福町婦人団体連絡協議会の手作り弁当も振る舞われ、参加したお年寄り約80人は楽しい一日を過ごしました。



まちの話題



みんなで育てた ブロッコリーの収穫体験

大崎小学校の1、2年生が3月2日、同校の畑でブロッコリーの収穫体験を行いました。

生活科の学習の一環として、季節ごとの野菜を栽培しています。昨年9月に松浦青年農業者会（松本康明会長）からブロッコリーの苗約80本をもらい、植え付けから水やりや雑草取りの世話を続けてきました。

収穫には同会のメンバーも応援に駆けつけ、児童らは、みんなで育てたブロッコリーを、包丁で切り離して収穫しました。

2年生の泊千里香さんは「毎日、色や大きさが少しずつ変わるのが楽しみでした。大きいブロッコリーが取れてうれしいです」と話してくれました。収穫を終え、さっそく試食会を開き、取れたてのブロッコリーをみんな笑顔でほお張っていました。



災害の減少を目指して意見発表

消防職員が業務を通して感じたことや日ごろの考えを発表する消防職員意見発表会が2月21日、松浦地区消防署で行われました。

消防に関する自分の考えや意見、業務への反映などを5分以内で発表する大会で、4月6日に開催される県大会出場者を選考します。

この日は、タバコ火災や子どもの火遊び、地域のつながりなどについて、職員8人が自分の考えや対応などを発表。選考の結果、富野寿朗消防士長と福浦三成消防士長の2人が代表に決定しました。

色とりどりのつばきにつつまれ

—第35回福島つばき祭り—

第35回福島つばき祭りが3月4日と5日の2日間、福島総合運動公園武道館で開催されました。

福島つばき会と福島町観光協会の共催で毎年開催されているもので、今年もつばき苗の販売やつばきの盆栽展示、小・中学生のつばきを題材にした絵画などの作品が展示され、会場を訪れた観客を楽しませました。

園芸指導は、佐木茂会長がつばきの植え方や手入れの方法などを説明を交えながら実演し、訪れた人は「ていねいな説明で分かりやすかったです」と話していました。

また、会場の外では特産品販売や食事コーナーが設置され、多くの人でにぎわいました。



地元住民が笛吹ダムを見学

多目的ダムとして建設が進む笛吹ダムで3月11日、笛吹地区、横辺田地区の住民を対象に見学会が開かれました。

この日は両地区から約70人の住民が参加。県職員からダム施設の説明を受け、湖底やダム堤体内部の施設を見学しました。湖底からの見学は今回で最後となるため、参加者らは湖底に残る棚田や石積みなどを見ながら、工事前の様子を語り合ったりカメラに収めたりしていました。

笛吹ダムは総貯水容量2百1万立方メートル。3月1日には試験的に水をためる湛水試験が始まり、約一年かけて最高水位までため、漏水がないかなど安全性を確認します。

「輪っかもん」が清掃活動

上志佐青年会「輪っかもん」（吉原智則会長）のメンバーが3月19日、上志佐地区の清掃活動を行いました。

同会は、20代の上志佐地区などの8人で、昨年11月に発足。地域活性化のために何かできないかと、今年1月から毎月1回地区内の清掃活動を行っています。名前は「若い者」の方言と、「輪」を大切にしたいという会の方針からつけられたものです。

この日は、上志佐地区の県道脇を清掃。空き缶や弁当の空き容器、また不法投棄された廃タイヤやエアコンなど、軽トラック2台分を約3時間かけて回収しました。

吉原会長は「毎月の清掃活動のほか、地区での夏祭りも地域住民と一緒に盛り上げていきたいと思っています。また、一緒に活動してくれるメンバーも募集しています」と話していました。



「交通安全を呼びかけます！」

—大崎交通少年団入退団式—

大崎小学校の4年生から6年生の児童で組織する「大崎交通少年団」の入退団式が2月22日、同小体育館で行われました。

式では、退団する6年生11人を代表して白石幸勲くんが「さまざまな活動を通して、いろんな人とかわることができてよかったです。今後も交通少年団の活動を頑張ってください」とあいさつ。入団する3年生12人を代表して濱野美穂さんが入団のことは述べました。

また、今福小では23日に、志佐小では27日に入退団式が行われました。